

## 第5回 脳科学研究所スポーツ大会 「木村杯」開催報告

平成29年9月24日（日）、晴天のもと、恒例の脳科学研究所スポーツ大会「木村杯」が本学園キャンパス内で開催された。第5回の節目となる今大会は、玉川大学TAPセンターの全面協力を得て、「個と組織の成長」を促進するTamagawa Adventure Program（TAP）を体験することとなった。

まずは、脳科学研究所・脳科学研究科の教職員、研究員、大学院生と家族友人、計48名（うち見学者9名）が研究センター棟向かいのアクティビティホールに集まり、難波克己先生、大山剛先生、村井伸二先生らファシリテーター4名のリードで参加者同士のコミュニケーションが図られた。その後、ネズミ、サル、ヒト、赤ちゃんの4チームに分かれて本学園小学部の奥にある屋外のチャレンジコースに移動した。準備体操の後、まずはグループワークでロープや丸太を渡るローチャレンジコースで腕慣らし。ほとんどの参加者は初めて見るTAP施設に



興味津々で笑顔で楽しんでいった。次に、いよいよ高さ10mを超えるロープや丸太を皆で協力して乗り越えるハイチャレンジコースに挑戦することになった。チャレンジは志願制。ヘルメットを手に志願した者は、ほとんどが女性と子供であった。地上では脳研の面々が一丸となって命綱を握って支えている。普段、研究室では決して見ることのできない(?)光景であった。チームの団結力が最高潮になったところでアクティビティホールに戻り、いよいよチーム力が試されることとなった。

ゲームの結果は、栄えある第1位はヒト・チーム、第2位はネズミ・チームとサル・チーム、最下位は赤ちゃん・チームであった。第1位の参加者には難波先生と木村實先生より優勝トロフィーと資生堂の高級スポーツドリンクが贈呈され、最下位には「来年の幹事」タスキと普通の栄養ドリンクが贈られた。その後の懇親会でも研究談義に大いに盛り上がった。脳科学の教育実践の場ともいえるTAP活動の体験を活かして、脳科学研究に立ち向かう体力と英気を十分に養うことができた一日であった。

（玉川大学脳科学研究所 磯村宜和）

